

(20)

氏名(生年月日)	ニシ ムラ トシ ヒコ 西 村 敏 彦
本 籍	
学 位 の 種 類	医学博士
学位授与の番号	乙第554号
学位授与の日付	昭和57年4月16日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	虚血性脳病変の外科に関する研究
論文審査委員	(主査) 教授 喜多村孝一 (副査) 教授 太田 和夫, 教授 渡辺 宏助

論 文 内 容 の 要 旨

研究目的

頭蓋外、頭蓋内血管吻合術(EIABと略す)は、1967年以来虚血性脳病変に対して行なわれているが、その手術適応および効果については未だ議論がある。

本研究は虚血性脳病変患者に対するEIABの適応を決定し、かつEIABと保存療法との優劣を比較せんとした。

研究対象および方法

1975年9月から1979年12月までの間にテント上の虚血性病変のため東京女子医大脳神経センターまたはその関連施設に入院しCTおよび脳血管撮影を施行された患者のうち1980年6月現在十分なfollow-upのなされていたものを研究の対象とした。このうち保存療法群(A群と略す)は74例、外科療法群(B群と略す)は41例である。

脳血管撮影所見は病変部位に基づいて7型に分類し、さらに脳血管の狭窄の程度を(+)から(++)までの3段階に分けた。

CT所見は梗塞巣の有無、広がりに応じて4群7型に分類した。

Neurological Score(以下NSと略す)としてはテント上の主に中大脳動脈領域の脳虚血による症状を、8項目、3段階に分けたものを用いた。A群およびB群の時期別のNSを検定し、そのTotal Neurological Score(TNSと略す)と予後および手術効果との相関を検討した。

さらに、follow-up期間が2年以上のものはA群の中で56例(A'群と略す)B群で33例(B'群と略す)で

あるが、これらのTNSの比較より保存療法群と外科療法群との予後を比較検討した。

保存療法としては、急性期を過ぎたものにAspirin®、Persantin®(dipyridamole)、MDS®(デキストラン硫酸エステルNa)、Trental®(pentoxifylline)等の単独または併用投与療法を行なった。

EIABには患側の浅側頭動脈と中大脳動脈皮質枝の端側吻合を施行した。

結果ならびに総括

1) A群の中で再発作をおこした15例中6例(40%)はM1 distal部の閉塞であった。B群では手術効果と閉塞の部位や程度の間には関連性がみられなかった。側副血行路の発達程度が神経脱落症状の軽量および予後に大きく影響した。

2) CTでは、A群、B群のTIAおよびProlonged Reversible Neurologic Deficit(PRND)併せて34例中、6例にlow density areaがみられたが、残りの28例(82%)は正常または脳萎縮像のみであった。一方、Completed Stroke(CS)56例中、38例(68%)が、径3 cm以上の、あるいはmultifocal, multilobar、もしくはdiffuseなlow density areaを示した。

3) 保存療法群のうち、follow-up期間中再発作がなく神経症状の悪化もみられなかったものは、Aspirin®単独投与例で73%と最も多く、以下、Aspirin®とPersantin®の併用例で70%、Persantin®単独投与例で57%、いずれの薬剤投与も受けてないもの60%であった。

4) EIABの手術適応となるものは、脳血管撮影上か

らは側副血行路の発達が見られるもの、CT 上は、low density area のないものあるいはあっても、vital area を回避した部位に小さな low density area をみとめる程度のものである。これらは臨床病型上、TIA あるいは PRND に該当する。

5) 2 年以上 follow-up したものについてみると、保存療法群 (A' 群) 56 例中、10 例 (18%) 外科療法群 (B' 群) 33 例中、9 例 (27%) に再発作がみられ、A' 群の

8 例 (14%)、B' 群の 3 例 (9%) が脳虚血病変が原因で死亡した。さらに機能予後の面では、A' 群の 38%、B' 群の 32% のもので TNS の悪化がみられた。しかし、発作予後、生命予後、機能後いずれの面でも両群の間に推計学上の有意差はみられなかった。

6) EIAB の術後合併症は 10% であったが、operative mortality は 0% であった。

論文審査の要旨

本論文は、脳梗塞、一過性脳虚血発作などに対する頭蓋内外血管吻合術の手術適応を検討した学術上の価値の高い論文である。

主論文公表誌

虚血性脳病変の外科に関する研究

東京女子医科大学雑誌 第 52 巻 第 1 号

275～291 頁 (1982 年 1 月 25 日発行)

副論文公表誌

- 1) 中枢神経疾患に対する 10% Glycerol の臨床的研究 I. Pilot Study

新薬と臨 26 (9) 73～80 (1977)

- 2) 脳神経外科における高浸透圧性非ケトン性糖尿病昏睡の 2 治験例。

脳神外科 5 (11) 1165～1170 (1977. 10.)

- 3) 高血圧性脳内出血急性期の Grading

高血圧性脳出血の外科 II (にゅーろん社)。

101～108 (1977. 10.)

- 4) 高血圧性脳内出血に関する研究 (第 3 報) 大脳基底核部出血の手術適応決定上の因子について。

脳神外科 6 (7) 647～655 (1978)

- 5) 大脳基底核部高血圧性脳内出血——重症型の手術適応——

高血圧性脳出血の外科 III (にゅーろん社)
40～45 (1978. 10.)

- 6) 高血圧性脳内出血に関する研究 (第 4 報) 大脳基底核部出血の急性期 Grading と手術適応。

脳神外科 7 (1) 37～48 (1979)

- 7) 開心術後に発生した Mycotic Aneurysm の 1 例。

脳神外科 7 (4) 371～375 (1979)